

# 熊本・徳永直の会報

第 14 号

## 第八回 孟宗忌は

二月十日(日) 午後二時半

徳永直文学碑前で

今年で八回目の孟宗忌を迎える。昭和三年(一九五八)二月五日が徳永直の命日であるが、数年前から日曜日がいいということで、今年は二月一〇日になった。文学碑の発案者でもあり、徳永直の会を生み育ててこられた高光義明氏が昨年五月八日、徳永直の住む世界へ旅立たれたのが寂しい。が、今秋は熊本近代文学館も完成、徳永直コーナーで親しく彼の文学的偉業に接することができる。日本近代文学会の全国大会も一〇月二六、二七日に熊本で開かれる。熊本出身に徳永直がいたという誇りを持ってうれしい。これを機会にさらに徳永直の作品を読んで親しみを増したいものである。「太陽のない街」を始めて実際に読んだ大学生は「大変おもしろかった」と報告している。労働争議を扱った作品だから「おもしろくない」との先入観があったのと言っている。

当日は例年通り同場所にて懇談会が引き続き行われる。メザシと焼酎、五百円会費、どなたも参加できる。

## 徳永直の時代が再び

木庭克敏

嵐の来る気配は

それとなくわかるものだ

鋭い耳を持つ者たちには

なきやんだ虫の声

体を吹きぬける

しめっぽい空気によって

けれど ばらばらにされた密室の中で

マイホームの夢想はますますふくらむ

それが嵐をよびよせる

パイロットランプである事も知らないで

徳永直の時代は

再びかえって来ようとしている

それも

核という厄災を伴いながら

早春集

玄峰

早春に集ふ

森上幸義作

庭樹南枝聞曉鶯

庭樹の南枝に曉鶯と聞く

野径陽岸草初萌

野径の陽岸に草初めて萌ゆ

佳期已至歡無極

佳期已に至り歡び極りきく

竹裏開樽詩酒盟

竹裏に樽を開く詩酒の盟

事務局だより

△ 一月一五日消印、小沢清氏より創作「いろは」のコピーが届く。一九八四年一月号『世界』に掲載されたものである。徳永直との出会いのところが描かれている。とくに主人公戸一が、四十枚の小説を持って経堂の徳永直を訪れる場面では、徳永直の肉声が聞こえてきそうである。次回会報にその部分は紹介したい。

△ 一月一日、中村研究室で第八回孟宗忌の打合せをする。同時に高光義明氏の遺稿集についても相談。義明氏の姪の高光睦子さんも出席、この世話人会に久々の女性であった。また熊本市立高校の上野三千春氏が今回から世話人メンバーに加わり心強い次第である。

△ 一月一八日、大野たつめさんより一万円のご寄付があった。深謝深謝。

△ 一月二二日、大島茂氏より会費（一五〇〇円）が届けられる。  
△ 孟宗忌当日は、偲ぶ会終了（四時予定）後、坪井五丁目「すみよし」（三四三一九二〇九）で続偲ぶ会をやります。多数のご参加をお待ちします。

○ 会報に原稿を……どんなささいなことでも徳永直に関する文章や情報をお寄せ下さい。

〒860 熊本市黒髪二一四〇一 熊本大学教育学部中村研究室

電話 〇九六一(三四四)二二二一(代表) 内線二五八四

振替熊本 四一―一四九八番